

建設産業委員会会議録

平成 26 年 2 月 27 日 (木)

午後 3 時 17 分 開会

○小出義一委員長

委員会を再開します。閉会中の調査事項について、を議題とします。

暫く休憩します。

休憩 午後 3 時 18 分

再開 午後 3 時 31 分

○小出義一委員長

委員会を再開します。地元の意向を受けて、どうやったらやれるのかという摺合せも必要かなと思いますので、そういった作業もふくめて進めていきたいと思います。

○沢田清委員

最後に確認します。今、現段階はカクサンさんにはそういう方向で行くということによってストップしてもらっているということでしょうか。

○小出義一委員長

はい。やれるから任せておけと言ったわけではなく、気持ちがあることを表したいという発言であったと聞いています。

○新美保博委員

カクサンさんはボールを投げる方なのか受ける方なのか。どちらか。

○小出義一委員長

どういう協議会にするかのイメージは共有していかなければいけないので、彼だけではないでしょうが、理念を実現する為にどうしたらいいのかということもその中に入れていければ、1つのたたき台として皆さんとご協議したいと思います。

○新美保博委員

カクサンさんがボールを持っているのならばカクサンさんがやらなければいけないことがでてくるのではないかと。

○小出義一委員長

向こうがボールを投げて向こうが処理してこういう風にやっていきますというところですか。

○新美保博委員

カクサンさんがなぜボールをこちらに投げないのか。こちらにボールを投げる立場なのか。カクサンさんがどういう会を立ち上げていけばいいのかわからないならわかりませんというボールを投げなければならない。どういう作業部会がいいですかという、ボールを投げてこなければならない。一緒にやらなければならないというのはみんながわかっている話。どういう風に声を掛ければいいのかかわからない。誰を呼べばいいのかかわからない、といたらその間だけでもなげかけなければならない。僕がリーダーでやりますという人が何もやらずにいれば、会なんて絶対に動かない。こちらが心配する話ではない。それは聞いてきたのか、カクサンが言うことを委員長が聞いてきて、ボールを投げられたということか。こちらがボ

ールを返さなければならないのか。

○小出義一委員長

聞いてきたというより、その協議会を作っていくということにあたってカクサンさんがやるのを待っているというのが私たちの立場ではないと思っています。一緒にやってみましょうねということを投げかけ、向こうも他人ごとではなく、主体的に動く。ではどうしましょうということ、それについても知恵を貸してほしいということを投げかけられたと思っています。で、協議会というものをどういう風に作っていくのかということ、少し詰めていく段階だと思います。

○新美保博委員

今の話だとボールを投げられてこちらが返さなければならないということだと思うよ。

○小出義一委員長

そういう意味で投げられたということですね。向こうの意向もありますので、勝手にこちらだけが作っていくということではないのかなと。

○新美保博委員

この間カクサンさんが手を挙げたからあの人全部やるなんて誰も感覚的に思っていないと思う。さっきの間もそう。みんなに声を掛けてやる気のあることは示せてもどういう風にやったらいいのかわからない、というので、投げかけられたのであれば返せばいい。こういう風にやったらどうか、ああいう風にやったらどうか、それではなくてこうしよう、という風に一つずつぶしていかなければならない。

○小出義一委員長

そういう意味でボールは投げられていると思います。逆にどういうことを理念として考えていくのかはカクサンさんたちに考えていただきたいと思いますし、それをどんなメンバーで考えていくのかということも今後の課題だと思います。

○岩田玲子副委員長

建設産業委員会ですらどういう風な会議をしていけばいいのかという、ものを話し合った方がいいと思います。

○新美保博委員

そうだとすると、建設産業委員会どうするかという方向を委員長、副委員長がしなければならない。それをだしてよ。

○小出義一委員長

そういう意味で、先ほど申し上げたようなまちづくり協議会のイメージを摺合せていくということを委員会として考えていかなければならないのかなと思います。

○新美保博委員

それは委員会としてのものなのか。違うでしょ。それはカクサンさんがそう言ったから、言ってるのではないか。

○小出義一委員長

カクサンさんはやっていくという意思表示をされた立場で、向こうにも考えてもらわなければならないことはありますが、まちづくり協議会どういった役割をするものを作らなけれ

ばならないかというのは我々の観点から示していくことも必要だと思っています。

○新美保博委員

たたき台は作れなくはないかもしれないけれど、おそらく作っても意味はないから、最初にもどらないか。地元の話聞くことはすごく大事だけど、あまりその話に引っ張られてしまっても。何度も言ってきたと思うけど建設産業委員会が地元の人たちと話をする前に話をしてきたのは、昔ながらの活力ある街並みを作りたいねという話は一致していた。それで一番早い景観整備に走った。色揃えて、と浅はかな考えを持った。地元がそれをやってくれるのかなと地元と話したら、地元の人たちはほとんどないことを考えていた。そんなことではないよと。色塗ったら人が来てくれるという話ではないことに気付かされて、私たちは暗礁に乗り上げている。カクサンさんたちは焦っている訳でもなんでもない。じっくりやりましょう、ということなら私たちもそういう考えならじっくりやればいい。

○沢田清委員

カクサンさんにはうちとしては一緒にやっていきたいので、ちょっと一人で進まないでね、という意味で言ってきたのではないのですか。

○小出義一委員長

そういう意味で打ち合わせをしていきたいねと。ここで2回懇談会を開いているんなことをお聞きし、一步でも前にでられるような結果がこの委員会としては出していけたらと思いましたが、それが地元が進めていく組織づくりなのかなと思ったものですから、そういうことができれば成果だと思しますので、たたき台を作るということを提案させていただきました。

○新美保博委員

地元の組織づくりね。そういうことで行きましょう。それでいいじゃないか。その為に、勝手にお前たち作れ、ではなくて、組織づくりに応援するよ、ということでもいいんじゃないのか。

○小出義一委員長

一応素案を送らせていただきますのでいろいろご意見をいただいて、それで委員会のまとめになればいいし、それではまとめにならないのであればまた知恵を絞るなり、今年は断念するなり方法はあるかと思いますが、できればせっかく協議会を。

【発言するものあり】

具体的になるよう素案を作って。

○榊原伸行委員

委員長と副委員長がいますので、委員長だけ単独でカクサンさんと話をするのではなく、一緒に話し合ってもらわないとだめだと思います。

○小出義一委員長

電話での確認でしたので、委員長だけでしたが、摺合せも必要ですのでその場には副委員長も一緒にいっていただくように日程調整しています。

【発言するものあり】

それでは素案を作りますのでまたご意見いただければと思います。次回の委員会の日程だ

け調整させてもらえたらと思います。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

4日の午後からよろしいでしょうか。

【「はい」との声あり】

○小出義一委員長

長時間かかりすみません。次回の日程を3月4日午後1時半からよろしくお願いいたします。長時間ありがとうございました。委員会を終了します。

閉会 午後3時47分